

## 立地企業（30年表彰）と市長との「“本気”で語ろう会」会議録

日時	平成30年11月19日（月）16:30～17:40まで
場所	庁議室
参加者	立地企業（30年表彰）5社（6名）
	市長、農林商工部長、外4名

### 意見交換

#### テーマ:立地30年を迎え、課題と今後の展開について

- 現在、抱えている課題（人材の確保等）について
- 今後の展開について

#### 【立地企業の意見】

（鹿屋市に立地した理由）

- ・立地した30年前、製造業は、東京・大阪などは人手不足であった。その解決策として、人材を求めて地方に工場等が進出したのではないかと。
- ・当時の企業誘致に対する熱心さ、人材集めに対する協力や物流拠点である志布志港の整備・発展などが要因ではないかと。

（課題等）

- ・自動車部品を製造している。課題は、従業員の高齢化である。自社の製品は、手間がかかる作業が多く、使われている部品がどんどん小型化している。現在、従業員は65歳まで雇用しているが、雇用を70歳まで延長するとなると細かい作業を行うことが大変になると思われる。造り方を変えるのか、機械化を進めるのか、今後考えていかなければならない。
- ・食品加工製品を製造している。課題は、人材の確保である。人が集まらず、採用しても長く続かない。また、管理職候補者や地元の大卒や高卒の男性を採用したいがなかなか集まらない。弊社に関わらず、女性の雇用と外国人実習制度をどう活用していくかが、大きな課題である。  
鹿屋の優位性（セールスポイント）は、土地と水、志布志港が近いことである。
- ・プラスチック用金型を製造している。金型産業において、競争に打ち勝つには設備投資が重要である。常に新しい技術が開発されており、設備投資をしないか顧客が満足する製品を提供できない。近年、少量多品種の製品を求められるようになってきており、顧客を増やすことでリスクを回避できると考えている。
- ・同じくプラスチック用金型を製造している。課題は、人材である。金型産業は、誰でもすぐにできる仕事ではない。熟練するのに最低4、5年かかる。10年以上勤務する社員は大抵続くが、採用しても2、3年で離職する者もいるため、定着率が悪い。

(市への要望等)

- ・ 保育所を増やすなど女性が働きやすい環境を整備してほしい。産休や育休後復帰しない方もいる。保育所の空きが少なく、子どもを預けられないため、働きたくても働けない人が多いのではないかと。
- ・ 女性が働きやすい環境を整備するため、社内に託児所の設置を検討している。設置にあたって市からアドバイス等をお願いしたい。
- ・ 台風のたびに停電になり業務に支障をきたしている。業務に支障がないよう体制等を整備しているが、自社だけの対応では難しい。何とかならないものか。

【市長】

- ・ 企業誘致を行うにあたって、鹿屋の優位性や売り（セールスポイント）を整理する必要がある。
- ・ 高校生の就職は、保護者の意見を参考にしている部分も大きいと思われるため、保護者を対象とした説明等の機会があっても良いかもしれない。
- ・ 以前、市内在住の外国人を対象とした「本気で語ろう会」を開催した際に、「日本語をもっと勉強したい」、「運転免許がないので遠出ができない」という意見があった。帰国後も鹿屋を応援してもらえるよう、これら課題に対して何かしらの対応が必要であると感じた。
- ・ 保育所や電力の件については、今後も情報交換を図りながら対応等を検討していきたい。